

に手を下した者に反省の機会を与えないことになる。

何よりも大切なことは、平素から生徒に施設・備品の維持について関心を持たせておくことであろう。クラスの担当委員または係りを決め、常に個数と保持状態に注目させておく。机や椅子は自分のものを固定させておいたほうが取扱いぶりがよいようである。ただこの点では、本校の机と椅子はかなりばらつきが大きく、固定化させると不公平感を抱かせることになりかねないということもあり、たびたび席がえをやること

で、いちいち移動させるのは面倒ということもあって、全校一律には実施し難い面がある。

何れにせよ、物を大切にしない傾向は、生徒の生育環境、ひいては社会全体の風潮の産物といえるものであるから、常に注意を喚起して、人為的にしつけて行くほかなく、入学時から卒業まで継続した指導が必要である。また、家庭での協力も不可欠で、保護者にも生徒の望ましい心構えを育成するような家庭的雰囲気要望しておくことが必要であろう。

〔6〕学校盗難について

丸 山 豊

我々教師を一番悩ませるものに「学校内盗難」がある。教育上、学校自ら警察になることはできない。盗難の実態も定かではない。各校ともその対策として生徒の自己管理に訴えているのが実情である。まず、盗難の実態とそれに伴う生徒の意識について、中1、中2に絞って報告したい。

調査方法 アンケート形式

調査対象 本校中1、中2 計168名(84×2学年)

調査日 1986年3月19日

(1)この一年に盗難にあったか

資1 盗難被害について

盗難にあった	な い
39%	61%

39.2%の者が「ある」と答えている。学年格差はほとんどない。本校は各学年2クラス構成という小規模校だが、盗難発生率はかなり高いのではないか。

回数は、2回、3回以上の被害にあっているものも各学年1割弱おり、その合計件数は、70件を越す。

(2)盗難届をしたか

資2 届出について

届 け 出 た	届 け 出 て い な い	届 け な か っ た 時 も あ る
41%	45%	9%

被害者の41%は届出ている。45%は届出していない。これでは、我々教師は被害の実数を正確に把握したくても不可能ということになる。隠れた盗難が届出数以上にあることを考え、同時に「なぜ届出ないのか」を探っていく必要がある。

(3)なぜ届出ないのか

盗難被害に対して届出をしない生徒たちは「自分が悪かった」という一種のあきらめが大半を占める。しかし気がしれたクラス、学校の中で(特に本校は)いつ盗難にあうかもしれないという疑心暗鬼の学校生活では教育以前の問題でもある。

一方「先生にいったところで」という無力感もあり、ここに盗難予防のむずかしさがある。

家庭では、被害は報告されているのだろうか。調査では63.6%が親に話している。しかし、親の対応の仕方も「盗られる方が悪い」と親子共々あきらめてしまうのではないか。

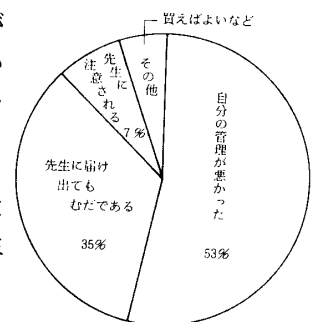
(4)何を盗まれたのか

残念ながら圧倒的に現金が多い。現代社会の縮図である。

制服のポケット、カバンの中の現金が盗まれることは、カサやシャープの盗難とは質を異にする。日常生徒たちは何のために、どのくらいの金額を所持しているのかを、下校後の行動も含めて考える必要がある。

盗難の時期については、むろん教室を難れる、移動授業、部活、体育時に集中している。

資3 無届けの理由



資4 盗まれたもの

1. 現金	25件
2. 傘	11件
3. クツ	7件
4. 時計	5件
5. 服(ブラウス、体操服)	4件
6. 定期券	3件
7. シャープ	3件
8. スリッパ	3件
9. その他	12件

(5)盗難について生徒はどう考えているか

資5 生徒の意識(盗難発生の理由)

生徒自身の問題である 77%	学校努力の不足 8%	社会の問題 7%	その他(家庭など) 8%
-------------------	---------------	-------------	-----------------

盗難が発生するのは「生徒自身の問題」とほとんどの生徒(77%)が考えている。具体的に生徒の問題とは何なのか

- ・小遣いがないから
- ・学校の空気
- ・おもしろ半分
- ・楽しんでいる
- ・一種のいじめ
- ・罪悪感がない
- ・(めずらしいもの、金を)自慢する雰囲気

盗んでも盗まれても共に「たいしたことではないさ」という雰囲気がここからもうかがえる。こうした空気はやがて、万引きを公然と話題にする状況を生み出していく背景である。

次に「学校、先生の問題」をあげ、要望として、

- ・厳しい指導をして欲しい
 - ・授業中、抜け出したり(忘れものなどといって)又は、遅刻したりする生徒を許さないで欲しい
 - ・外部の人が自由に入出入りできるのを何とかしてほしい。などを述べている
- 「家庭・社会」の問題としては
- ・親が甘い、何でもすぐ買い与える
 - ・社会全体では、万引きが横行している
 - ・うまくやれば、何をしてもよい
 - ・皆悪くなってきている(子供料金で地下鉄など)などをあげている。

(6)盗みのない学校づくりのためにどうしたらよいか

資6 盗難のない学校づくりのためにどうするか

自分で管理する 61%	クラス生徒会で話し合う 12%	犯人をさがしだす 6%	その他(人の心の問題だからムリ) 21%
----------------	--------------------	----------------	-------------------------

「管理をしっかりする」。当り前の選択が大半を占める。これでは盗難の本質的な解決につながらない。

「クラス、生徒会で話し合う」は12%、盗みを直接とりあげることはむづかしい。真の仲間意識、連帯やおもいやりが学校生活の中で望めなくなっているのが実情である。

その他の21%は、盗難は人の心の問題だから無理で

あるとか、できるわけがないと極めて否定的であるのも問題点の一つといえよう。

我々教師の立場から盗難のない学校づくりをどんな形でめざしたらよいか。生徒への責任転嫁より、学校の教育力、教師の力量が問われることになりそう。

(7)具体的事例に対する生徒の意識変化

最後に学校内で頻発する傘、文具類の粉失、盗難、校外での自転車放置等の具体的事例について、中1、中2の生徒たちの「物」に対する考え方、「盗む」行為についての意識について触れたい。

イ. 急に雨が降ってきたから、傘立ての傘をもちだして、翌日返しておいた

学 年	中 1	中 2	平 均
盗みといえる	41.6	79.5	60.5
どちらともいえない	42.8	19.2	31.0
盗みにあたらない	15.5	1.2	8.5

中1と中2に大きな学年差がある。「返しておけば、黙って持ち出してもよい」という考えが主流なのか。中2の判断は正しくても現実には傘の盗難が多発するのはなぜなのか

ロ. シャープペンがなかったので黙って友だちのものを借り、そのまま返すのを忘れた

学 年	中 1	中 2	平 均
盗みといえる	84	70	77.0
どちらともいえない	19	24	21.5
盗みにあたらない	7	6	6.5

イと同じ内容の設問だが、生徒は「返すのを忘れた。」というところに罪の意識をもつのか。中1と中2の逆転は何を意味するのか。「友だちのもの」という意識の中に、友だちならいいんだろうという互いに許し合うものがありそう。

ハ. 他人の注文したパンをおなかがすいたので、食べてしまった

学 年	中 1	中 2	平 均
盗みといえる	78.5	85	82
どちらともいえない	15.4	13.2	14
盗みにあたらない	6.0	0.8	4

友だちのパンぐらい……という軽い気持ち、一種の悪ふざけとしか考えていない生徒が2割近くいることになる。

ニ. 教科書を忘れたので、無断でとなりのクラスからもってきた

ニ 単位 (%)

学 年	中 1	中 2	平 均
盗みといえる	69	66	67.5
どちらともいえない	27	28	27.5
盗みにあたらない	4	6	5

わからない、いえないの合計、3割強。教科書はお互いさまという実態がうかがえる。日常、ロッカーや机の中に教科書を放置しておく習慣が、やがてどうでもよい存在になっていくのかもしれない。

ホ. 何日も自転車が放置してあったので廃品かと思っ
て家にもちかえり修理して使っている。

ホ 単位 (%)

学 年	中 1	中 2	平 均
盗みといえる	52	92	72
どちらともいえない	25	4	14.5
盗みにあたらない	28	4	13.5

この結果で顕著なのは、中1と中2の差である。放置自転車を勝手に乗り回す犯罪は特に中学生の年代に多く発生している。つまり中1段階で48%、約半数弱が「盗難とはいえないかもしれぬ」という曖昧な判断しかできていないということがわかる。中2になるとさすがに判断力がつき歯止めがかかった如く思われる。しかし、この調査直前に中2においてこの種の事件が集団で発生していることを考えあわせるなら、中1、中2も大差ないとみる方が妥当である。

調査結果を終えて。社会と学校、生徒と教師、親と子それぞれに価値判断の開きが大きく、「盗難」というもっともはっきりしている善悪の区別すらつかない現状がうかがえた。初歩的な指導を中学段階のしかも早い時期に行う必要があることを痛感した。

〔7〕清掃・美化について

山 本 岩 男 米 山 誠

1. はじめに

本校の校風は何かと尋ねられたら、生徒は「自由」と答えるだろう。自由ということの解釈はいろいろできるだろうが、彼らの意味する「自由」には責任、規律のともなわない、ただ単に何をしてもよいことというニュアンスがこめられているようである。そうじについてもその意味での自由が幅をきかせ、教室、廊下には落書とともにごみが目につくことがある。このような状態をいかに改善するか、それにはまず生徒の意識の実態を把握する必要があるのでそうじについて60年度中学一年から高校二年までの生徒全員を対象にアンケートを行った。

2. アンケートの結果

アンケートの結果を理解する資料として60年度の本校の清掃体制を記しておく。

- ・生徒、教師全員で清掃。全区域に生徒が割り当てられていて、教師も全区域を分担して清掃指導。
- ・各クラスの割り当ては教室、廊下とあと2か所（たとえば外庭、トイレ、特別教室など）
- ・時間は第6限終了後（3時から3時15分）でその後には帰りのホームルーム

Q1 本校の環境美化（そうじ）の状態を全体的に見

てどんな印象をうけますか。

- ア 非常にきれいだ イ かなりきれいだ
ウ あまりきれいでない エ 全くきたない
オ よくわからない

Q1 本校の環境美化

	中 1			中 2			中 3			計	高 1			高 2			計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
ア	2	0	1	2	2	2	5	0	2	2	13	5	9	14	2	7	8
イ	2	5	4	16	2	9	7	2	5	6	10	9	9	4	2	3	6
ウ	73	63	68	64	81	73	60	77	69	70	46	49	48	55	66	61	54
エ	7	16	12	4	5	5	21	14	17	11	21	23	20	16	27	22	21
オ	16	16	15	14	10	11	7	7	7	11	10	14	14	11	3	7	11

中学 「あまりきれいでない」が圧倒的に多い。

高校 「あまりきれいでない」が圧倒的に多く、さらに「全くきたない」とする生徒が20%もいて中学よりも10%多い。

Q2 校内の次の各場所について、日ごろの美化（そうじ）の状態をどう思いますか。

- ア 非常にきれい イ かなりきれい
ウ あまりきれいでない エ 全くきたない
オ よくわからない

1) 自分たちのクラスの教室と廊下